

◎令和6年度 第1回 相模原中等教育学校 学校運営協議会

1 校長挨拶

・学校教育計画【4年間の目標と主な方策】の振り返りを行うとともに、忌憚なく意見を頂きたい。

2 学校運営協議会委員紹介

(1) 委員

・自己紹介を行った。

(2) 学校担当職員紹介

・自己紹介を行った。

3 学校運営協議会 会長及び副会長について

・会長 加賀 大学 副会長 坂野 慎二 に決まった。

4 学校より

(1) 学校運営協議会について

・副校長より、説明を行った(別紙参照)。

(2) 令和6年度 学校運営方針について

・副校長、各グループリーダーより説明を行った(別紙参照)。

Q 評価の観点について、前年度の自分と今の自分がどう変わったのか認識でき、目標を達成したことを生徒が喜べるような具体的な観点が必要なのではないか。

A 学力推移調査などで、生徒は前年度の自分と具体的に比較できる。

Q 資料8について、「国際教育」ではなく、『国際理解教育』ではないのか。相手の母国、地域、国家を尊重していけるような人材の育成をしてほしい。

A 英語のみならず、他者理解の心も育めるようにする。

Q 資料4について、多くの児童が受検している。授業についていけない、または雰囲気違っていたなど感じた際の相談やフォロー体制はどうなっているのか。家庭にすべて任されているのか。

A 入ってから苦労するということもあり得るが、受検するか否かは家庭の判断に任されている。学力は平均的にあるが、コミュニケーションがうまく取れない生徒もいる。生徒だけでなく保護者の相談者もとても多い。

Q 生徒数が減っているが、転学する生徒もいるのか。

A 前期課程で不登校になってしまう生徒も少なからずいる。高校を受験するか否かの選択を3年の7月には面談など通して促している。昨年も他の高校を受験した生徒がいた。保護者は中等を続けてほしいと願っている場合が多いので、保護者との折り合いが難しい。通信制の他校に転学する生徒も数名いる。

Q 裏目標として、進路変更をする生徒を少なくする目標設定する必要があるのではないか。周りの生徒にはどう説明していくのか。

A 図書室登校や支援室を設けるなど、できることは行い手厚く対応している。進路変更をするか否かについては本人が納得して転学も決めるのであればそれで良いので、裏目標として目標にする必要がないと考えている。

- Q アイスブレイキングは実施しているのか。特に1年時に丁寧にやってもらうことはお願いしている。また、マニュアルはあるのか。マニュアルがなければ、組織として動いていることにはならない。
- A マニュアルはないが実施している。前期生は昨今、手をかけ、目をかけなければならない状況が続いている。教員は丁寧に指導している。
- Q Graduation Policyについて、個々人では設定できているのか。自分の卒業までの個人目標が生徒個人で記録として残っているのか。
- A SSS振り返りシートを導入している。また、Google Formでまとめを取り、生徒が自身を振り返る機会を設けている。
- Q それをまとめたものを提示してほしい。
- A 第3回学校運営協議会で3年間の経年評価を出せるようにしたい。
- Q 3学年について、数学Ⅰ, A, Ⅱの先取り学習について、届けているのか。
- A 先取り学習については届けてある。
- Q 資料6の令和5年度進路決定状況について、第1志望を諦めないという指導において、浪人が増えたことを良しとしているのか。
- A 10期生は国公立の医学部医学科を目指す生徒が多かった。早稲田慶応に受かっていたが、浪人している生徒もいた。浪人は、第1志望を貫くのであれば否定するものではない。
- A 「あなたが心から学びたいことは何ですか。」という質問を生徒に投げかけた。この質問の答えを追究してほしい。
- Q 中等での学習が楽しいということは小学生にうまく伝わっているのか。
- A 学校説明会で話すときに受検生本人に響くような話ができるようにする。
- Q 資料12の予算編成学年費について、追加徴収はないのか。
- A 途中で徴収することも時にはあるが、ほぼない。
- Q 働き方改革は進んでいるのか。
- A 少しずつだが進めている。新しく取り入れるのではなく、教職員との対話を通して今あるものを見直していく。

○ご意見

- ・学校要覧p.12 数学の検定教科書について、『これからの数学1 探究ノート』は検定教科書ではない。検定教科書でないものが検定教科書として記載されている。教職員がイメージを揃えて、足並み揃えて教育活動を行う必要がある。生徒には幅広い進路希望をもって自分なりの進路実現に一生懸命になってくれればよい。
- ・定期テスト問題を授業の前に作成し、それをもとに指導と評価を行えると良い。中学校ではできているところもある。資料9は熱意を持って作成されている。
- ・資料9は学校に対する親の期待には応えており、マーケット的にも感じる。子どもが自分でこの学校に通いたいと思え、子どもが自己実現できる仕掛けを作してほしい。
- ・学校目標やstudent taskは一部の生徒にしか当てはまらないのではないか。多くの生徒に実現可能なものにしてほしい。

5 その他

特になし